

■ 廊下学習 ■

先週の金曜日、放課直後に職員室前の廊下を通りがかった。生徒がぱらぱらと集まり始めている。先生に用事があるのだろうか、ノックをして職員室の先生に呼び掛けている者もいる。でも、どちらかと言えば廊下に並ぶ14台の木製の机に陣取る者が多く、しばらくの間に満席になってしまった。

ここには常連が多い。今でこそ過ごしやすくなったが、彼らのうち何人かは今夏の酷暑の中でも見かけた。焼けつくような西日を浴びて、汗を拭きながら問題を解いていた。

いわゆる『廊下学習』が世に紹介されたのは、確か平成13年のことだ。受験情報誌に写真入りで記事が載った。



三重の県立K高校を訪れる人は、まず、廊下に机を出して自習をしている生徒の姿に驚くことだろう。ごく普通の学校の廊下、その窓側に向かって一列にほぼ等間隔で机が並び、生徒が思い思いの教材を広げている。廊下の隅では生徒に話し掛けられた教師が、机の傍らに座り込んで丁寧に質問に答えている。同校にとって日常的な光景である「廊下学習」は一期生から続いている。

『廊下学習』が始まったきっかけは、3学年担任室の前で個人面談の順番待ちをしていた生徒が、待ち時間がもったいないといって、余っていた机を廊下に出して勉強し始めたことからなんです。今では、2学期になると廊下のそこら中が机だらけになるんですよ」と先生は苦笑する。

手元が暗くならないようにと、職員室や3年担任室の廊下の窓側に蛍光灯を設置したのは、学校側のせめてもの配慮。しかし、図書室や教室に比べれば、夏は暑く、冬は底冷えするほど寒い。また、人通りが激しいため、勉強する環境として、決して良いとは言えない。それでも生徒は「廊下」に集まってくる。その理由を、進路指導課の先生はこう分析する。

「廊下で勉強する3年生の姿を見て育った下級生が『今度は自分たちの番だ』という気持ちになるのでしょう。生徒は決して甘やかされることだけを望んでいるのではなく、あえて過酷な環境を選ぶことで、自らを厳しく鍛え、成長させたいと思っているのではないのでしょうか」。

その後、『廊下学習』は石川県内にも広がり、今では、職員室前に机の並ぶ高校はいくつもある。

2学期の中間試験が始まった。快適な場所はいくらでもあるのに、昨日も職員室前の机には勉強する生徒の姿があった。ここには通る先生にも生徒にも見られているという緊張感がある。そういう場に身を置き、ただ静かに目の前の勉強に集中する。そんな日々の積み重ねの先に夢の実現があると信じている。

そして大人になったいつの日か、懐かしく思い出すことがあるといい。汗を拭きながら勉強したことも、かじかむ手で鉛筆を走らせたことも、窓から見つめたあの美しい夕焼けも。